

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0190200915		
法人名	㈱じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 北丘珠館 3階		
所在地	札幌市東区北丘珠4条1丁目4番16号		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&jigyosyoCd=0190200915-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・当ホームは4階建ての複合型介護施設として平成27年4月に開設される。1階～4階はサービス付き高齢者向け住宅、1階では小規模多機能型居宅介護、2階3階はグループホームとなっている。
- ・館には100坪にもなる農園があり、散歩や農作業、収穫をする楽しみがあり、利用者様との交流が随時図れ、顔なじみの関係を構築することが出来ている。
- ・行事などは皆が参加が出来るよう企画し、三大大行事である夏祭り、敬老会、クリスマス会には力を入れ、複合型施設のメリットを活かし大規模開催により楽しむことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者会議で理念とコンプライアンスの研修を行った。管理者会議の冒頭とユニット内での毎日の申し送り時に理念を唱和し実践が出来るように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議に町内会役員が出席されている。また、夏祭りを開催した際に町内会から太鼓などをお借りしたりと日常的に交流を図ることが出来ている。昨年から引き続いて地域向け便りの発行を行い、地域に向け発信している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、入居者様も出席して発言をしている。また地域向けに北丘珠通信を年に2回発行し、回覧板にて地域の人々に向けて発信している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々や毎月の活動を報告して出席者より意見を頂いている。食事について発言があり、10月に試食会を行う。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターから研修案内やその他情報を頂き、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社新人研修でのカリキュラムに設定されている。また、11月ユニット会議の内部研修で実施予定している。入居者様本位のケアに取り組み歩行の悪い方でも介助にて自由に歩行できる環境を作っている。玄関の施錠は日中はしていない。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、本社新人研修でのカリキュラムに設定されている。11月ユニット会議の内部研修で、ともに実施予定。4月は接遇と題し、言葉の虐待を周知し8月には入居者様本位のケアや思いやりのあるケアの実践に取り組むことを周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットにおいて1月に研修を予定している。また、権利擁護は知識向上の為毎年研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は新しい契約締結はない。しかし、契約時には営業部長、管理者も同席し不安や疑問点の解消に努めながら理解、納得を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族の意見を聞く機会を設けている。また玄関や各ユニット内にもアンケート箱を設置している。来訪時にも現状の報告や意見をお聞きしている。意見・要望・苦情報告書の書式を活用し、早期に対応し運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理者会議、ユニット会議、また2か月に1度のリーダー会議の開催にて意見提案を聞く機会を設けられている。ユニットでは都度必要時に面談も行い意見を吸い上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や勤続手当などの支給により意欲向上が図れるよう環境整備が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部機関の実践者、実践リーダー、初任者研修、法人内においても交換研修、体験講習を職員の力量を把握し、それぞれの研修を受ける機会を確保している。また前準備のアドバイスや研修後の報告書の内容を吟味し伝達研修の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会を通じて同業者との交流を図り、ネットワーク作り、勉強会に参加し質の向上を図っており、管理者だけではなく、職員も参加を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前より何度もご家族と打ち合わせを重ね不安を取り除く努力をしている。ご本人との面談にて安心できるような関係を作ることに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より引き続き、要望や相談等都度確認している。ご本人やご家族のグループホームに求めることを基本に実践できるように関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情や要望をを把握した上で必要としている支援の提案をさせて頂き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や洗濯、畑の収穫、レクリエーション等、職員といつも共に毎日を過ごしている。職員との会話や入居者同士の会話で、いつもユニット内は笑い声が絶えない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や受診時の医師からの伝達など普段より連絡を取り合っている。入居者様を中心にご家族の良好な関係作りに努力している。夏祭りや敬老会等の行事では沢山の方に出席頂き、楽しまれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族や親戚などの来訪が、ほぼ毎日ある。居室や食堂で過ごされ笑顔で出迎えている。また、ご家族と共に外出し楽しんで帰ってくる入居者様もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓やテレビ前のソファで入居者様同士の会話がいつも聞かれている。8月より食卓席の変更をしたところ、新しい関係性が出来上がり、食事の後はお茶を飲みながらゆっくり会話をする光景が見られるようになった。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、退去者はいないが必要時には相談、支援が出来るよう体制は整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位のケアを第一に行う様に職員に徹底している。新入居時や入居者様の状態の変化時はミニカンファを開き、ご本人の思いを検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から基本情報シートの記載で生活歴などを把握し、ご家族の面会時に確認したり、ご本人からも何気ない会話の中で過去の生活の様子を聞くことで支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンスで情報共有を行っている。また日々のバイタル測定や健康チェック表、個人記録、日誌などを通して、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がひと月に一度モニタリングを記載し、それをもとにカンファレンスで話し合い、アイデアや意見交換が盛んに行われている。その際課題点を出し合い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったサービスを行い、個人別の介護記録に記載している。また介護日誌にも当日の様子を記載し情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時における通院の支援や、内科の主治医以外の他科受診や往診へ連絡調整を行い、柔軟に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーでの買物や郵便局での郵便物の投函に職員と共に出かけ、近所の方にお会いしたら挨拶や会話を楽しむなどの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所との提携した医療機関を提示して、ご家族が選択出来る様に支援している。提携医療機関では月2回の訪問診療、24時間の医療支援体制で適切な医療を受けられる様にしている。また、訪問歯科や訪問皮膚科などの専門医も紹介している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回職場内の訪問看護があり、健康チェックや相談・報告を行い指示を頂いている。提携医療先の看護師とも都度連携を図り、情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況を介護添書として病院関係者に伝達し、経過確認、リハビリや食事の立会いなどを通して関係者との情報交換、ご家族との相談をし関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した際の指針の説明を行い同意を頂いている。体調の変化時は看取り介護指針に則り、医師や看護師、ご本人、ご家族との話し合いの場を設け説明、看取りの同意を得るよう支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社マニュアルの緊急時フローを都度確認をし実践に活かすよう取り組んでいる。目につく場所に張付し確認できるようにしている。また、救命講習を受け、他職員にも伝達し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の訓練を計画、実施し発電機の稼働の仕方を職員で共有。一時避難先の会館や町内の方との連携にも努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本社、事業所内において研修を実施。また事業計画や毎月の目標に掲げ、接遇を通して言葉掛けなどの対応に配慮している。また、何気ない会話の中で人格を尊重した声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で帰宅願望のある方は、散歩や館内を一緒に歩いている。希望や自己決定はその都度対応している。ご本人の意志で何かをしている時は安全に配慮しながら、納得するまで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様第一の合言葉で、業務優先ではなく、常に入居者様優先を職員に徹底している。それぞれの思いを汲み取り、職員が寄り添うことでその日その日を大切に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回訪問美容にてヘアスタイルを女性らしく、希望に添えるように担当者に代弁している。服装もご本人に選択して頂ける支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食業者の委託となっており調理はないが、後片けの食器洗いなどは職員と共に会話を楽しみながら行っている。また、不定期ではあるが生寿司を握る職員がいるので、レクリエーションで企画実践、誕生日の日にはちらし寿司にてお祝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作成、調理して頂いている。食事量水分量を毎日チェックし、なかなか摂りづらい入居者様には別な形で工夫している。月に一度の給食会議にて意見交換を行い、入居者様の意見を反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。義歯洗浄は毎日行い口腔内の汚れにより引き起こされる肺炎についても講習を過去に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンをつかみ、習慣を活かしてトイレへの誘導を行っている。またご本人が申告した場合は速やかに対応している。入居者様の力を活かして排泄が出来る様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や日頃の運動を日常化することで便秘予防に努めている。なお、ヨーグルトやヤクルトを個々に召しあがっている利用者もおり予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者様のその日の体調を確認したうえで、週2回一人ひとり時間をかけて、ゆったりと入浴ができるよう支援を行っている。職員が常に関わり入居者様にとってリラックスできる時間となっている。浴室や湯温を常に適温に保っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースを保っている。体調に応じて昼食後は休息の時間を設けている。昼夜逆転している方もおり、無理に職員側のペースにするのではなく、あくまで本人のペースで生活できる支援を行っている。寝室の気温や布団の調整に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が把握出来るよう、処方確認表や往診記録を置き確認している。確認後は確認印を押しており、また日誌で申し送りを必ず行っている。ご本人に自分の薬の認識を職員見守りの中行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様に対して、それぞれ多種多様な支援を行っている。家事活動や趣味の詩吟、合唱など。また運動や歩行練習も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一ヶ月に一度の外出レクでは皆様楽しんでいた。お天気の良い日に桜の木を見に行ったり、近所を散歩したりしている。ご家族と一緒に外出している入居者様もいる。お盆にはご家族とお墓参りに行った入居者様も4名いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は理解を頂いて、ホームに預かりか、ご家族に返している。外出レク時やスーパーへの買物では、支払いを職員見守りの中行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望にはいつでも叶えられる支援をしている。またご家族様からの電話も多く、取次ぎ会話が出来るような支援を行っている。9月には誕生日の日にお孫様よりお祝いの電話が来て嬉しそうにお話していた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようにフロアの中には入居者様の手による装飾を施している。季節に合わせた温度、湿度調整を行っている。テレビや音楽をうまく取り入れ、音量についても配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の出来る入居者様同士で近くに座って頂いたり、ソファに座ってゆっくりテレビを見ていただったり、思い思いの日常を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と相談し、ご自身の使い慣れた家具などを置き、安心して過ごされる様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場に大きく表示しご自身でも迷わず行ける様に、表示を大きくしている。またフロア内いたるところに手すりが設置されている為歩行者は手すりを利用して、ひとりで歩く方も多い。		